

# 100<sup>th</sup> carnation

カーネーション、愛され続けて百年

1909年(明治42年)東京中野の澤田氏が  
日本最初にカーネーションを生産し、出荷しました。

社団法人 日本花き生産協会カーネーション部会

■部会長 岡内正明(香川県) ■副部会長 星井栄仁(山口県)、部会長 大塚(愛知県)、部会長(長野県)



## カーネーション生産の誕生

### 日本のカーネーション生産の祖 澤田

1909年(明治42年)

米国シアトルから帰国した澤田氏が東京中野に小さな木造温室を建て、カーネーション栽培を始めた。これが日本のカーネーション生産第1号

澤田氏のカーネーション生産は、事業として成功せず、3年後の1912年(明治45年)病没

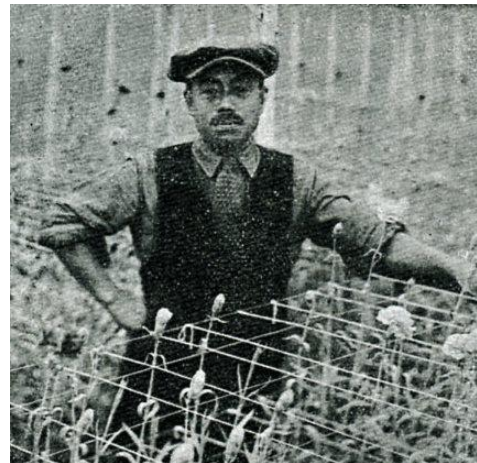
### 日本のカーネーションの父 土倉龍次郎

1910年(明治43年)

東京目黒でカーネーション栽培を開始。志を果たせず病没した澤田氏にかわり、栽培技術を完成させ、体系化し、生産の礎を築いた



土倉龍次郎



犬塚卓一

### 日本のカーネーションの母 犬塚卓一

1907年(明治40年)

米国ポートランドへ移住、カーネーション栽培を学ぶ

1925年(大正14年)

新しい栽培技術、多数の品種、米国式温室120坪、暖房施設一式を船に積んで帰国。玉川温室村に温室建設。近代的カーネーション栽培技術を確立した

## 育種の土倉

明治末から大正時代にかけて、英国、米国から多くのカーネーション品種を輸入し試作  
欧米から輸入した品種は日本の高温多湿に適さなかったため  
自ら品種改良に着手  
菜花1号、桃山、舞姫、白雲など生涯に30品種以上を作出



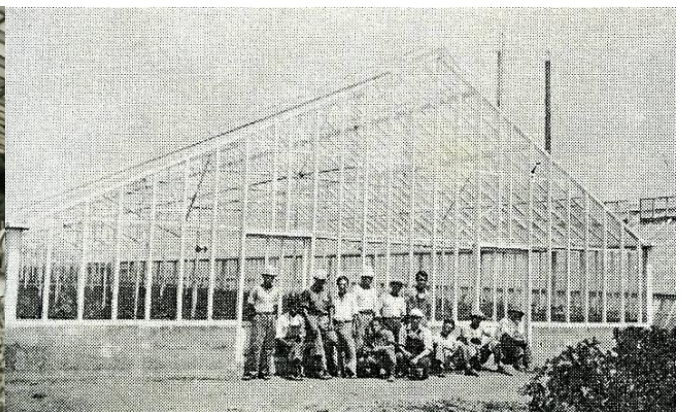
土倉龍次郎の主な育成品種

## 栽培の犬塚

今日の近代的カーネーション栽培技術の礎を築いた  
多くの温室経営者が犬塚の温室で学んだ



犬塚の米国式温室



全国の温室経営者が犬塚温室で学んだ

前半生は台湾の林業・水力発電の父  
後半生はカーネーションの父  
土倉龍次郎の生涯

1870年(明治3年)

「日本の造林王・吉野林業の父」土倉庄三郎の次男として、  
奈良県吉野郡川上村で生まれる

1895年(明治28年)

25才で台湾に渡る。1万町歩300年の借地権を得て植林に着手

1903年(明治36年)

台北電気株式会社設立、台湾初の水力発電

1909年(明治42年)

土倉家の財政が傾きはじめてため、事業を三井財閥に譲渡して帰国

1910年(明治43年)

東京目黒駅前に土地を購入、温室建設、カーネーション栽培開始

1917年(大正6年)

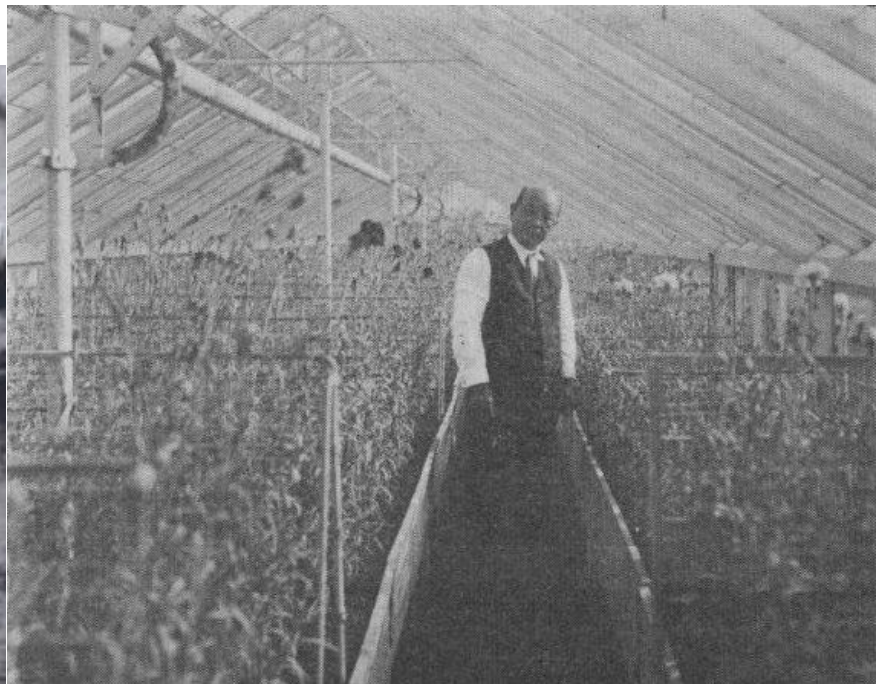
カルピス社設立に参加、監査役に就任。長男富士雄は戦後社長

1938年(昭和13年)

世田谷区池尻の自宅で他界、享年68才



台湾時代の土倉



温室での土倉

# 大日本カーネーション協会の創立

1932年(昭和6年)創立

会長 土倉龍次郎、副会長 犬塚卓一

会員は東京、神奈川、愛知、兵庫などから約70名



犬塚卓一副会長

土倉龍次郎会長

大日本カーネーション協会創立総会  
1932年(昭和6年)

# 大日本カーネーション協会主催品評会・展覧会

日時:1934年(昭和9年)2月1~6日

場所:東京三越本店7階

出品:カーネーション200点

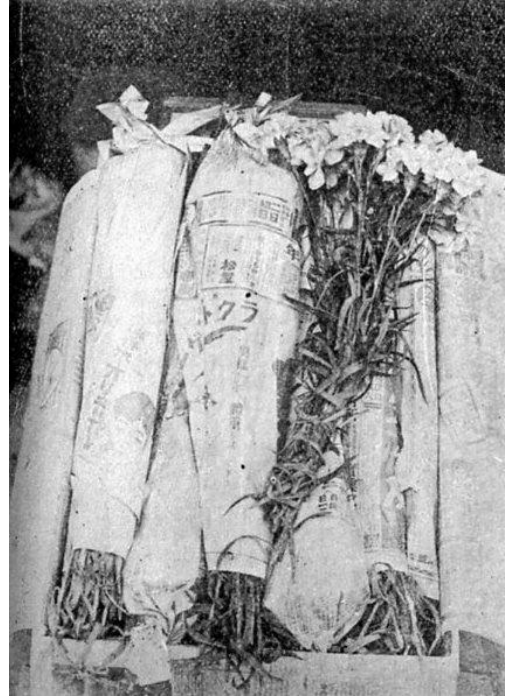


大日本カーネーション協会展覧会  
大日本カーネーション協会の本年展覧会は、去る二月一日より六日まで、東京日本橋三越本店七階に於て開催された。協会は同展覧会を主催し、是に際して「カーネーション」を主材料とする花飾品のいろいろの「パラス」より出陣された。カーネーションの種別場、①は「パラス」利用の生花、感花、輪排等、ある程度の花器が用意された。



## 日本初の花市場 東京高級園芸市場

1924年(大正13年)東京西銀座に開設  
組合長 烏丸光大伯爵 理事長 伴田四郎



当時のカーネーションの荷姿

## 関西で最初の花市場 神戸高級園芸市場

1927年(昭和2年)開設  
兵庫県生花(梅田生花)の前身



## 東洋一の玉川温室村

1924年(大正13年)

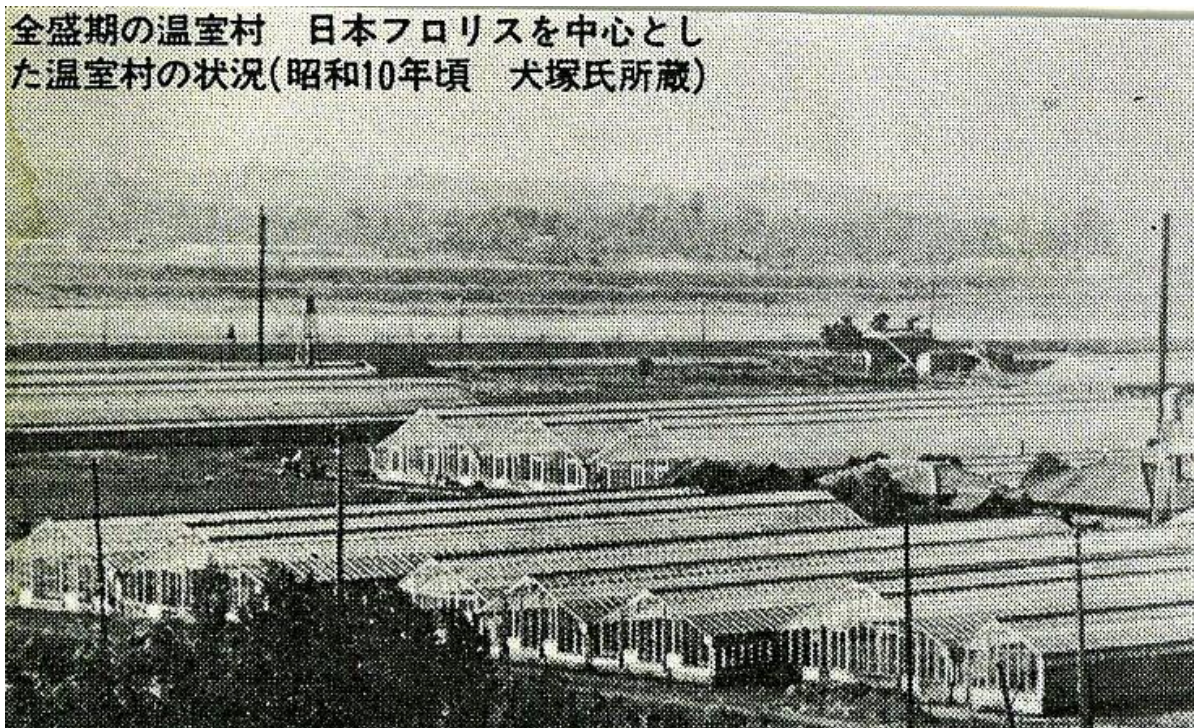
烏丸光大伯爵と森田喜平が経営する二項園が、多摩川左岸の調布村上沼部に温室建設。その後、30数名の園芸家が大温室を建設。玉川温室村と呼ばれた。

1937年(昭和12年)最盛期、1万5千坪の温室団地

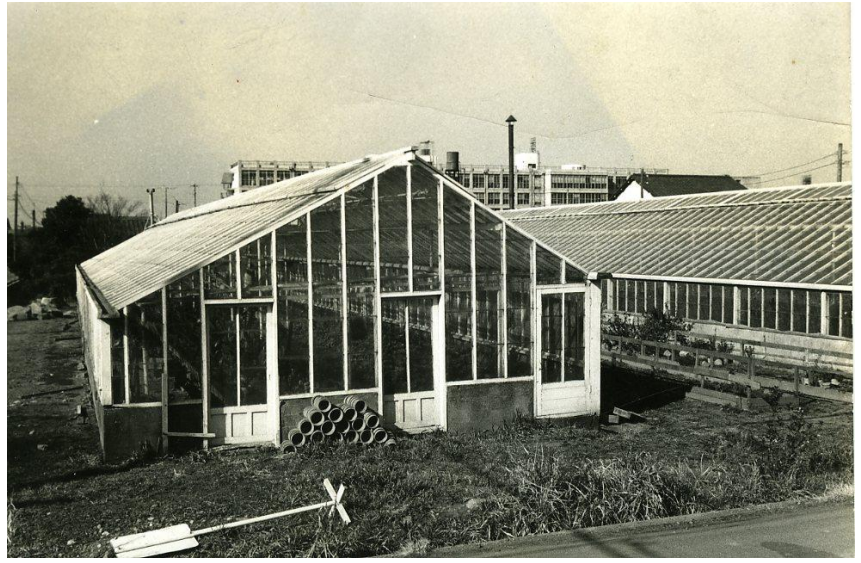


右が多摩川堤防

全盛期の温室村 日本フロリスを中心とした温室村の状況(昭和10年頃 犬塚氏所蔵)



玉川温室村の現在  
現在の地名 大田区田園調布  
温室村跡は高級住宅地



温室村最後のカーネーション生産者 間島五郎(1993年(平成5年)死去)と  
1931年(昭和6年)建設の温室



間島温室跡のマンション駐車場に  
建つ温室村記念碑



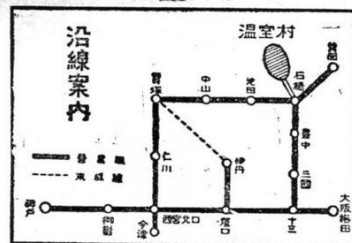
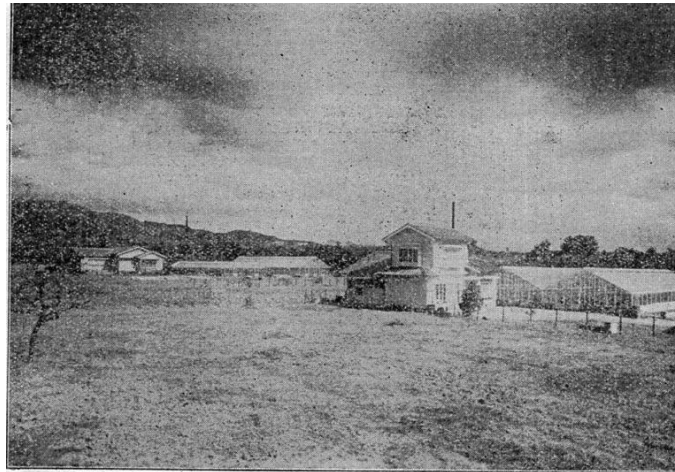
多摩川堤防上のバス停に  
その名をとどめる



# 阪急電鉄が分譲した石橋温室村

1932年(昭和7年)

阪急電鉄は大阪市近郊石橋(現池田市)に温室を分譲した8名が購入、カーネーション、バラなどを栽培



## 石橋温室村分譲

阪神二大都市の近郊に於て大百貨店と完全に聯絡を取り且集團經營を希望される方々の爲めに當社は沿線の好適地を破格御提供致します

- 一、當社實線石橋線より北約五丁、大阪より約三十分、經營地の南約一丁に大阪池田間の産業道路建設計劃中なり。
- 二、現在温室十一棟合計坪數六百坪附近一帯は緩るき丘陵地にして地質、水質、排水、良好専門家の推奨する園藝地なり。近くに小中女學校、高等學校、園藝學校、帝大附屬病院あり。
- 三、第一期特賣期間中坪七圓均一
- 四、一區劃五百坪内外、土地、住宅、温室總て十ヶ年迄年月賦物の便法きり。
- 五、住宅及温室の設計監督は無料豫約建築に應ず。

大阪市梅田

阪神急行電鐵株式會社

共榮課

(案内書進呈)

温室付き土地、住宅の分譲広告(實際園芸、昭和8年)



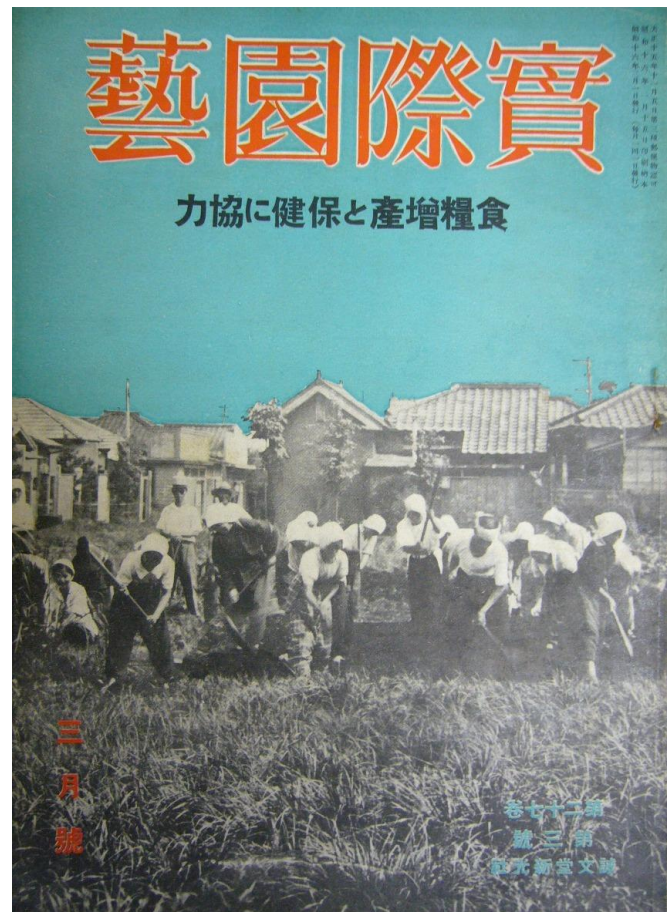
## 花作りは非国民

1938年(昭和13年)国家総動員法  
1939年(昭和14年)価格統制令  
1941年(昭和16年)太平洋戦争  
同 作付け統制令

温室のガラス反射が空襲の目標になることから  
ガラスの取り外し、鉄骨の供出や強制的に温室  
取り壊し、花栽培は壊滅  
一途に食糧増産



1940年(昭和15年)1月号  
カーネーションを収穫する美女



1941年(昭和16年)3月号  
太平洋戦争が始まると実際園芸誌も  
食糧増産を掲げる  
この年12月号で休刊となる

## 戦後の復興



戦後すぐの大森園芸市場(現大田花き)と荷姿



木造簡易温室と伊豆の花を指導した大矢好治夫妻の碑(河津三養院)

大矢は日本バラ切花協会をも  
設立した



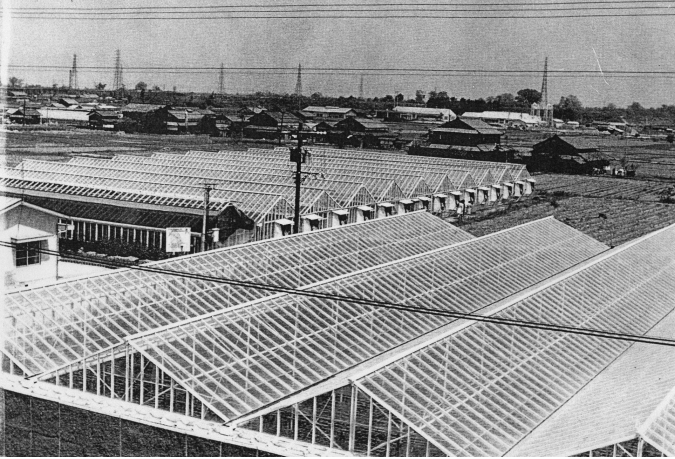
昭和20年代の淡路の出荷風景  
トラックで港まで運び、船で神戸港、  
大阪港へ出荷



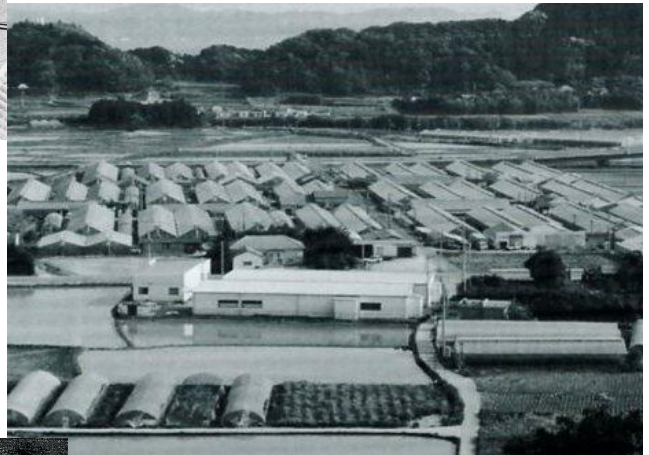
昭和天皇の淡路の温室行幸(昭和25年)

## 飛躍

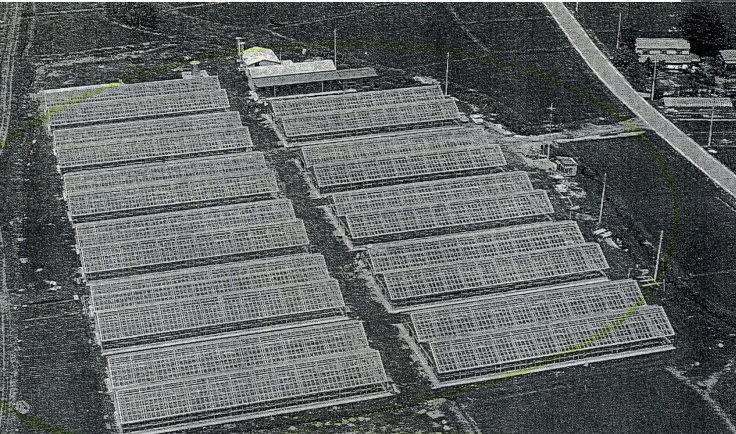
1963年(昭和38年)からの構造改善事業などにより  
全国に大型温室団地が誕生した



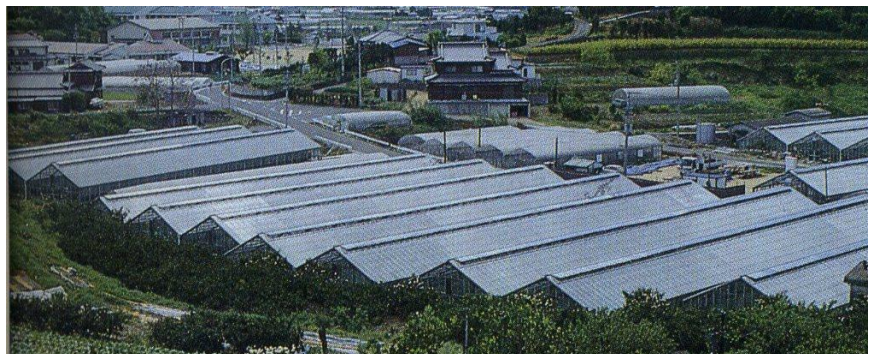
滋賀県草津市 志津



千葉県富浦町 青木



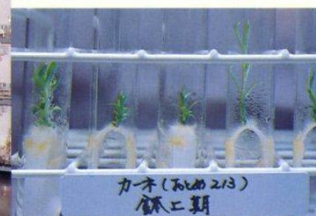
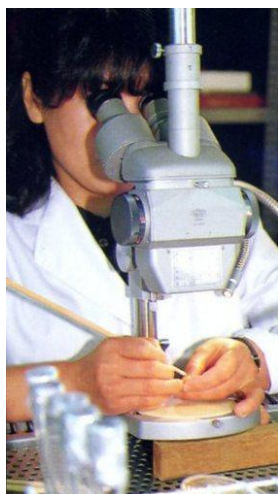
茨城県氏家町 氏家



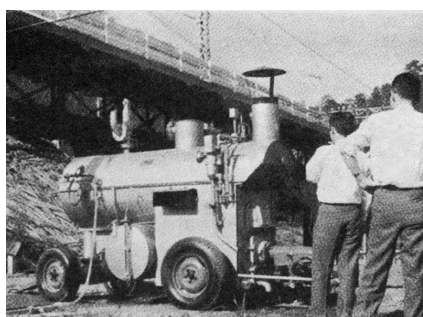
香川県仁尾町 仁尾

## 技術革新

新しい技術を駆使してカーネーションが作られています



苗は茎頂培養で作った無病苗(バイオテックの始まり)



土は蒸気で消毒

黄色蛍光灯を  
夜間点灯して  
害虫を防ぐ



出荷前に前処理剤を吸わせているので日持ちが長い  
(左:前処理済み 右:無処理)

## 現在のカーネーション生産

日本では年間6億本のカーネーションが使われています  
国民1人当たり5本

### 主な産地

	産地	面積 (ha)
1	長野	97
2	愛知	59
3	北海道	50
4	千葉	31
5	兵庫	27
6	長崎	22
7	熊本	12
8	福岡	11
9	静岡	10
10	宮城	9



スタンダードタイプ



スプレータイプ

■ 夏～秋出荷  
■ 冬～春出荷

### カーネーションの特長

1. 草姿、花色が豊富
2. 水あげが簡単
3. 日持ちが長い
4. 周年出荷
5. お手ごろ価格



ダイアンサスタイプ

